

市民意見・関係者ヒアリング結果について(経過報告)

1. 市ホームページ及び『市民の声』に寄せられたご意見※

【主なご意見】

- ・建設予定地が決定したという報道を見てとてもうれしい。楽しみにしている。
- ・青葉山より街中に設置するべきではないか。
- ・青葉山での建設に賛成。地下鉄駅からも近く、周辺に国際センターや博物館、美術館もあり、とても環境の良い場所。
- ・市内にはホールの絶対数が少ない上、収容人員も少なく、老朽化も進んでおり、「楽都」、「劇都」を掲げる都市としての魅力を大きく損なっている。早急な対応が必要。
- ・市民会館の建て替えのようなものではなく、オーケストラの演奏会に適し、世界から称賛されるホールとすべき。

※仙台市ホームページ「(仮称)国際センター駅北地区複合施設の検討状況」内にアンケートフォームへのリンクを設置し、令和4年8月31日(水)から意見を募集している。

※『市民の声』については、令和4年1月以降に寄せられたもの。

2. 青葉山エリアに関する市民シンポジウムでの来場者アンケート

令和4年9月25日(日)に「青葉山エリアに関する市民シンポジウム」を開催した。

そこで実施したアンケートに複合施設に係るご意見が寄せられている。

【主なご意見】

- ・生の音楽に触れることは、自然に触れるのと同じように精神のリフレッシュになる。楽しみ。
- ・音楽ホールから音楽が街に飛び出して奏でられていたら素敵だと思う。
- ・中心部震災メモリアル拠点は発災から復興までを俯瞰して「学ぶ」役割が必要。
- ・雨や雪に濡れないよう、地下鉄駅に直結させて建設してほしい。

3. 文化団体等へのヒアリング

市内で活動している文化団体や、県外の文化施設・文化事業に関する有識者に対し、複合施設に求めることや、検討を進める上で重視すべきことについてヒアリングした。

ヒアリングの実施団体は以下のとおりであり、その内容は資料2-1別紙にまとめている。

【市内文化団体】

- ・宮城県合唱連盟、宮城県吹奏楽連盟、(一社)仙台オペラ協会、仙台吹奏楽団、(一財)SCS ミュージカル研究所、仙台市民交響楽団、仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団

【県外の文化施設・文化事業に関する有識者】

- ・(一社)コンサートプロモーターズ協会 会長 中西健夫氏、ライブエンタテインメントラボ事業部 鬼頭隆生氏
- ・横浜みなとみらいホール 館長 新井鳴子氏
- ・兵庫県立芸術文化センター 舞台技術部長 関谷潔司氏、舞台技術部課長 野田学氏
- ・世田谷文化生活情報センター 館長 高萩宏氏
- ・地域創造プロデューサー 児玉真氏

4. 震災伝承関係者(被災当事者を含む)へのアンケート・ヒアリング実施

①(公社)3.11メモリアルネットワーク 広域伝承連携メンバーへのアンケート

県内外で活動している震災伝承関係者が参加する「(公社)3.11メモリアルネットワーク 広域伝承連携メンバー」に対し、各団体との連携のために必要な機能などについてアンケートを実施した。

【主なご意見】

- ・過去に起きた災害史の表現と人々が立ち向い、自然と共存して行ったかなどの過去に学び現代社会に足りないものを表現して欲しい。
- ・人が集まれるスペースもいくつか用意し、一般の人も使えるようにしてほしい。
- ・語り部や語り聞きを多く行う施設としてほしい。
- ・亡くなった方の慰霊・供養を行い二度と繰り返さない悲しみに向け話し合う事を設けて欲しい。
- ・多くのセクターを巻き込み、抽象度の高いテーマを取り扱うことができるのは、被災地で仙台市しかない。大きな期待がある。
- ・「仙台市ではやれないこと」も明示して、それを誰が担うのかを議論できるような場ができれば、東北被災地全体での災害文化醸成に寄与すると考える。

②市内メモリアル施設へのヒアリング

本市沿岸部における2メモリアル施設(せんだい3.11メモリアル交流館・震災遺構仙台市立荒浜小学校)職員に対し、中心部拠点に求めることなどについてヒアリングした。

【主な意見】

- ・東北、日本、世界の中での立ち位置を掴み、面としての連携の中で、仙台の特性を生かした役割を果たすべき。
- ・検討段階で作りこみすぎのではなく、将来の来館者・運営者のための「余白」を残すべき。
- ・一般の方の認知度が低いと思うので、アプローチの方法などを検討したほうがよい。

5. 災害文化普及啓発チームへのヒアリング実施

「災害文化」の普及啓発を目的とするパネルチーム(音楽・語り継ぎ・アーカイブ)に対し、本拠点に求めることなどについてヒアリングした。

【主な意見】

- ・多くの方が、被災経験をした人の生き方などから、生きるための力を学ぶ場としてほしい。
- ・「市民目線(ここに来れば何かが満たされる)」「専門性(調査研究とかシンクタンクのような機能)」という2つのアプローチができる場とするべき。
- ・音楽ホールと複合することを生かし、コンサートに来た人が「災害を学べる」ような場とするなど、外から来る人の視点も組み込んだ方がよい。
- ・街中の方は、沿岸部の方と比べてしまい「私は被災していない」と話し、当時のことについて口を閉ざしてしまっている。そのような方々が「語る場」としての機能も必要。
- ・「考え続ける場」というのがこの拠点に求められる。
- ・やることや設備を固定してしまうといずれ古いものになってしまうので、変化を恐れなくてほしい。柔軟に形を変えることができるのが大事な機能だと思う。

6. 市内コンベンション関係者へのヒアリング

以下の市内コンベンション関係者に対し、複合施設についてヒアリングした。

【ヒアリング実施団体】

- ・(公財)仙台観光国際協会、日本コンベンションサービス株式会社、株式会社コングレ、株式会社コンベンションリンケージ、株式会社 JTB、青葉山コンソーシアム

【主なご意見】

- ・青葉山交流広場に仮設テントを設置できなくなるにより、市に多大な経済効果をもたらす大規模医学系学会が開催できなくなり、県外へと流出するだろう。観光庁が選定したグローバル MICE 都市としての先行きを懸念する。
- ・展示会では駐車場が近隣にあることが重要。青葉山交流広場を駐車場として利用できなくなるにより、展示会の開催にも支障が生じる。
- ・複合施設と国際センターの催事が重なった場合、地下鉄や周辺道路の混雑が予想される。
- ・コンベンションにおいては施設が集約していることが重要。複合施設の大ホールや小ホールなどをコンベンションで使用できることは歓迎する。
- ・大規模なコンベンションを誘致する際には国際センターのみでは不足するため、ホールを含め、複合施設を使用したい。また、諸室はコンベンションに適した仕様としてほしい。
- ・大規模医学系学会開催時には、展示・ポスターセッション等のため、1,000~3,000 m²のフラットで、参加者のみが入れるクローズドなスペースが必要である。
- ・大規模医学系学会で使用できる会議室が不足しているので、300~500 m²の会議室を複数整備してほしい。
- ・複合施設にフラットな駐車場が整備される場合には、MICE 開催時にテントの設置場所として使えるとよい。
- ・国際センター周辺は飲食できるところが少ないため、複合施設内に飲食施設が整備されれば、少しはその問題が緩和される。
- ・コンベンションの誘致は数年前(3~5年前)から始まる。施設の優先予約を可能としてもらいたい。
- ・早朝・夜間帯も施設を利用できるようにしてほしい。
- ・施設や駅の周辺をマルシェのようにすると、子ども連れ等の若い世代が多く集まるのではないか。